佐賀大学医学部附属
看護学教育研究支援センター

－地域の看護職の質向上をめざして－

平成３１年度／令和元年度年報

Contents

平成 31 年度／令和元年度看護学教育研究支援センター事業報

教育研究実践支援部門 ・・・・・・・・・・3

人事交流支援部門 ・・・・・・・・・・5

国際交流支援部門 ・・・・・・・・・・6

センター支援を受けて（体験談） ・・・・・・・・・・7

センター関連の研究業績 ・・・・・・・・・・9

教育研究実践支援部門　　　部門責任者　古賀明美

教育研究実践支援部門は、部門責任者を含め、医学部看護学科教員 12 名と佐賀大学医学部附属病院看護師 1 名が担当している。本部門では、佐賀県内で教育・指導、研究、実践に携わっている看護職を対象に、研究支援と継続教育を行った。また、研修会等の講師として、地域の看護職のレベルアップに貢献した。令和元年度の支援状況について報告する。

（1）継続教育としての実践レベルアップ研修

継続教育プログラムでは、看護師のための臨床に役立つ解剖学スキルアップ講座（令和 1 年 7 月 2 日、9 日）に 8 名参加した。医療的ケア児等のための地域連携のあり方に関する研修（令和 1 年 4 月 14 日）に 58 名参加した。令和元年度佐賀大学緩和ケア研修会（令和 1 年 10 月 19 日）に 47 名参加した。アレルギー予防を目指して　乳幼児のスキンケア講座に 76 名が参加した。また、佐賀県糖尿病コーディネート看護師の育成研修（令和 1 年 11 月 9 日）では、2 名の糖尿病コーディネート看護師を育成した。

看護部主催では、専門看護師・認定看護師主催で 4 分野、計 7 回の研修を実施した。看護研究は、教育専任師長・専門看護師により平成 30 年から継続し、計 10 回の研修を実施した。総時間数は 31 時間で、受講者は延べ 298 名（院内 257 名・院外 41 名）であった。

さらに現場の求めに応じて、看護学科の教員や医学部附属病院看護部の看護師が病院や学校、看護協会、保健福祉事務所、助産師会などへ出向き、研修や講演などの講師を務めており、今年度の講師の派遣は 152 件となった。

平成 28 年、29 年度に佐賀県健康福祉部と連携し開発した 4 つの自己学習支援（e-learning）教材「感染対策」「フィジカルアセスメント」「心肺停止状態への対応」「脳神経系異変への対応」を県内の小規模病院や診療所で働く看護職に向けに配信し、令和元年度はこれに加え卒前の看護学生へも紹介することとなった。

（2）研究支援

研究支援については、佐賀大学附属図書館の協力のもとで、申請者が研究に必要な文献を活用できる環境を継続して整えた。研究支援の申請があれば、申請目的に応じて、その分野に最もふさわしい教員を決定し、研究計画書の作成から学会等での発表まで、マンツーマンで指導している。

平成 29 年度からの継続支援 7 件、平成 30 年度からの継続支援 1 件、令和元年度の新規申請 4 件（前期 4 件、後期 0 件）、合計 12 件に対応した。申請施設数は、平成 29 年度および平成 30 年度からの継続分は 4 施設、令和元年度は 1 施設であった。研究支援のうち、全国規模の学会発表 2 件であった。

（３）講演会の開催

地域の看護職対象に、「在宅医療・看護の ACP(アドバンスケアプランニング)の実際」をテーマに講演会を行った。ACP は、患者・家族が大切にしていることや望んでいること、どこで、どのような医療・ケアを望むかを、患者が前もって考え、周囲の信頼する人たちと共有する取り組みであり、自らが希望する医療やケアを受けるための大切なプロセスに医療職がどのように関わっていくかについて学ぶことができた講演会であった。

日　時：令和元年 10 月 19 日（土）　14：00～16:00

場　所：佐賀大学医学部　看護学科棟１階　講義室　5101

参加者：70 名（学内 41 名　学外 29 名）

講　演

① テーマ：在宅医療の ACP
阿部　智介　先生（医療法人慈孝会　七山診療所所長）

② テーマ：在宅看護の ACP
堀口 奈緒子 先生(医療法人 ひらまつ病院 訪問看護ステーション管理者
訪問看護認定看護師)

参加者のアンケート結果（53 名）

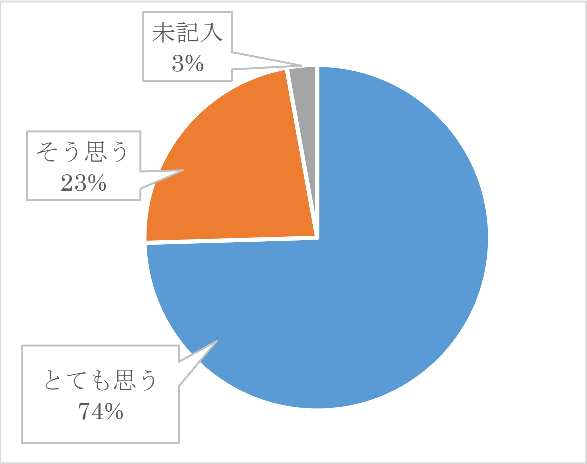

図１．患者とのかかわりで参考になるか？

＜自由記載＞

- たいへん貴重なお話しがきけてよかったです。特に堀口先生の実際の事例は関わりがわかりやすくＡＣＰを実際に落とし込むうえでよく理解できました。(訪問看護師)
- 治療導入での入院はＡＣＰを考えはじめるきっかけだと思う。初めてＡＣＰの話をする時や時間の最後はどうしたいかを話すときはどう介入していいかとまどう。(病院看護師)

人事交流支援部門　　部門責任者　田渕康子

人事交流支援部門は、部門責任者を含めて医学部看護学科教員 8 名と佐賀大学医学部附属病院看護部看護師 1 名の合計 9 名が担当している。本部門では、看護職者相互のキャリア向上を目指して、看護学科・地域の病院・行政機関の間での人事交流を支援している。平成 31 年度／令和元年度は、特記すべき人事交流は行っていない。

国際交流支援部門　　　　　　部門責任者　新地浩一

国際交流支援部門は、部門責任者を含めて、医学部看護学科教員4名と佐賀大学医学部附属病院看護部看護師1名の合計5名が担当している。平成27年2月に、看護職の国際交流を推進するために副部門責任者を置き、さらに支援の内容によっては、他部門の教員の協力を得て、支援を行う体制を取っている。

本部門では、看護職や看護学生の国際交流の支援、国際医療協力活動への看護職の派遣などを実施している。以下に、令和元年度の主な活動を報告する。

（１）交換留学支援

令和元年7月16日～7月23日に、台湾の輔仁カトリック大学看護学部看護学科２年生4名が佐賀大学医学部を訪問し、夏季交換留学を実施した。

また、令和元年8月19日～8月26日には、佐賀大学から看護学科3年生4名が、台湾の輔仁カトリック大学および関連病院を訪問して、有意義な研修を実施した。

（２）佐賀県内の看護師の海外看護留学支援

令和元年 9 月 14 日～10 月 6 日の期間に、佐賀県医療センター好生館看護部所属の看護師 1 名の米国(ミネソタ州) Mayo Clinic での看護留学の支援を実施した。

留学生は、Mayo Clinic の様々なスペシャリストによる講義を受け、自分が希望した分野の病棟や外来の見学、また訪問看護に同行する等、充実した日々を過ごし、多くの学びを得て帰国した。また、今後も常にアップデートされる世界の看護に目を向け、患者主体の看護を実施していきたいと報告している。

センター支援を受けて（体験談）

輔仁カトリック大学医学部との夏季交換留学プログラムに参加して

佐賀大学医学部看護学科３年
廣瀬　望美

私は令和１年８月１９日～２６日の８日間、輔仁カトリック大学の関連病院である新光**呉**火獅紀念醫院（台北市）における短期留学プログラムに参加させていただきました。

今回は新光**呉**火獅紀念醫院の病棟見学を中心に、現地の医療従事者の体制や病院環境、医療安全の管理状況、リハビリテーション、訪問看護などについて学びました。この体験を通し、日本と台湾とでの相違点や同じように看護を行っていることがあることがわかりました。台湾における看護のなかには日本では見ない方法を取り入れ、患者が通院しやすいように促しているシステムがありました。このように自国を出て他国の医療状況を視察することで、さらに双方の医療の発展につながるのではないかと考えました。また、日本の医療や看護の利点や課題についても考察することができました。今回の台湾への短期交換留学の経験は、異国の文化や言語に触れることで、知見が広がり、私の大きな学びとなり貴重な体験となりました。

最後になりましたが、今回の留学に多大なご支援をいただきました看護学教育研究支援センター（国際交流支援部門）の皆様に、厚くお礼申し上げます。今回の留学での学びを活かし、残りの看護学生生活や将来医療従事者になった際に、国際医療の発展に貢献できるよう尽力致します。

輔仁大学関連病院における実習指導教員との集合写真

米国・Mayo Clinic における看護留学のご報告

佐賀県医療センター好生館
看護部　柴山薫

2019 年の 9 月から 10 月にかけての 3 週間、木村看護教育振興財団の海外看護研修助成事業にて米国(ミネソタ州)の Mayo Clinic で研修をさせていただきました。私は主に、がん患者がその人らしく療養できるサポート体制（患者・家族ケア、チームアプローチ、Clinical Nurse Specialist や Nurse Practitioner 等のスペシャリストの関わり）と臨床での看護教育の実際を学びたいと考え、研修に参加しました。

3 週間の研修中は、院内の様々なスペシャリストによる講義を受け、自分が希望した分野の病棟や外来の見学、また訪問看護に同行する等、忙しくも大変充実した日々を過ごしました。がん患者がその人らしく療養できるための、患者と家族を中心とした多職種連携、充実したシステムの構築、患者に寄り添った医療者の存在が大変印象的でした。看護教育においては、看護師の自主性に合わせた学習のシステムや経済的サポート、環境が整備されており、臨床では Clinical Nurse Specialist や Nursing Education Specialist が常に看護師をサポートしていました。また、あらゆる領域で様々な看護職者がプロフェッショナルとしていきいきと働いている姿に大変刺激を受けました。研修に参加させていただき、臨床を自分の目で見て、触れることが出来たことは私にとって大きな財産となりました。今後も常にアップデートされる世界の看護に目を向け、患者主体の看護を実施していきたいと思います。今回このような大変貴重な機会をいただいたため、日々少しでも患者に還元できるように努めていきたいと思います。

今回の米国短期留学に際して、お世話になった関係者の皆様に感謝申し上げます。

センター関連の研究業績

学会発表

1. 寺尾ゆき子，中限温子，園田恵子，伊藤真由子，矢ヶ部千尋，橋本泰代，山口明日香，小松優美加，鈴木智惠子（佐賀県庁こども家庭課他）：小児慢性特定疾病児童等レスパイト訪問看護事業の事業展開について．第 7 回日本公衆衛生看護学会学術集会．2019,1,26-27．第 7 回日本公衆衛生学会学術集会講演集

【研究支援：鈴木智惠子】

2. 山崎彩加，中島ちひろ，武富由美子，青木雅代（医療法人春陽会うえむら病院）：A 病院及び関連施設の首尾一貫感覚（SOC）とストレス反応の関連．第 50 回 日本看護学会（ヘルスプロモーション）学術集会． 2019.9.19-20．第 50 回 日本看護学会（ヘルスプロモーション）学術集会抄録集，131

【研究支援：川久保愛】

3. 山崎彩加，中島ちひろ，武富由美子，青木雅代（医療法人春陽会うえむら病院）：A 病院および関連施設の首尾一貫感覚（SOC）とストレス反応の関連．第 37 回佐賀県看護研究学会．2019,3,10. 第 37 回佐賀県看護研究学会抄録集，12

【研究支援：川久保愛】

4. 篠田冬美，尾崎菜央，中川春泉，島田綾，福本明美（嬉野医療センター）：開心術を受けた患者が CCU 入室中に感じるストレス要因と抑うつ・不安に関する研究．第 17 回国立病院看護研究学会学術集会．2019.12.14．第 17 回国立病院看護研究学会学術集会抄録集，57

【研究支援：武富由美子】

5. 中島由香里，牧内菜緒（嬉野医療センター）：終末期看護の実習指導における実習指導者が感じる困難とする要因．第 73 回国立病院総合医学会．2019,11,8-9．第 73 回国立病院総合医学会プログラム集，70

【研究支援：坂美奈子】

6. 渡邊愛子，藤本照太（嬉野医療センター）：胸部手術を受ける高齢者の日光を用いた睡眠障害の実態．第 73 回国立病院総合医学会．2019,11,8-9．第 73 回国立病院総合医学会プログラム集，117

【研究支援：室屋和子】

平成 31 年度/令和元年度年報
佐賀大学医学部附属看護学教育研究支援センター
―地域の看護職の質向上をめざして―

令和 2 年 3 月 31 日発行
発　行　者：佐賀大学医学部附属看護学教育研究支援センター
〒 849-8501 佐賀市鍋島 5-1-1
発行責任者：センター長 長家智子
制　　　作：佐賀大学医学部附属 看護学教育研究支援センター